

# 立川で聞け

1

立川と語ろう 立川に生きよう  
January 2007  
écoutez bien Vol.25 No.266



表紙の人／宮崎光一(西砂町) 写真／細江英公

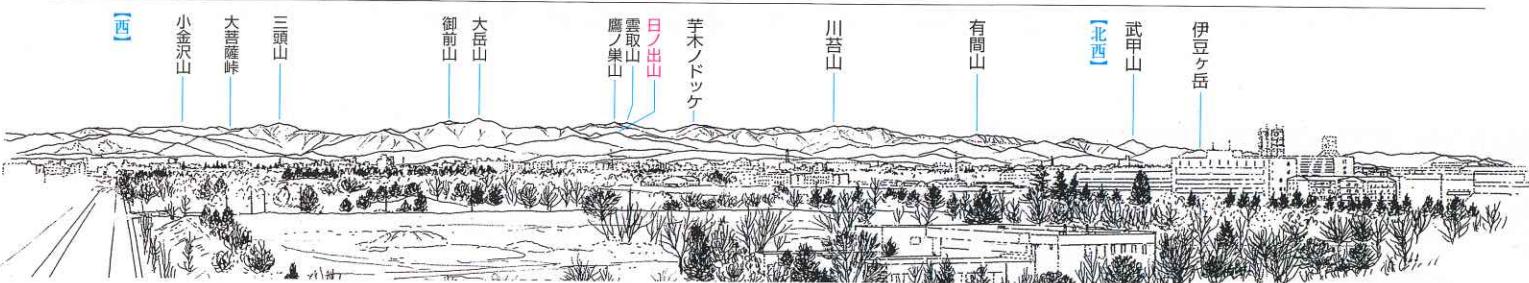
## 続・立川から見える山⑥

案内人：守屋龍男 写真：中村 伸

山岳展望図：藤本一美

# 日ノ出山

902m

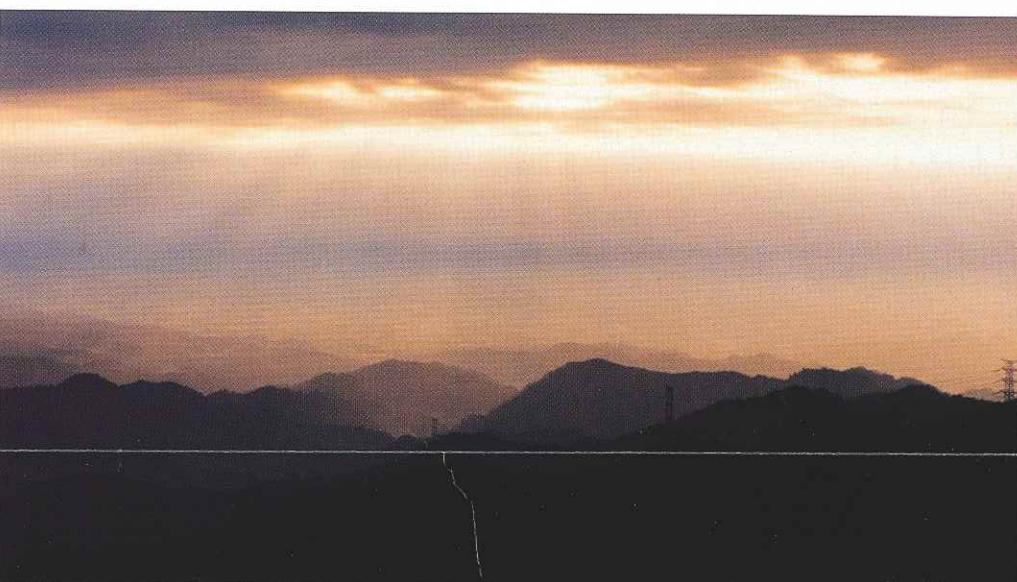


多摩モノレール 立川-高松間より

## 奥多摩東端 360度の展望

### 【日ノ出山へのコース】

1. JR 武蔵五日市駅 = バス = つるつる温泉 → 40分 → 滝本 → 1時間 → 平井川源流地点 → 40分 → 日ノ出山(往路を戻る)
2. JR 御嶽駅 = バス、ケーブル = 30分 → 日ノ出山分岐 → 40分 → 日ノ出山
3. JR 武蔵五日市駅 = バス = 白岩ノ滝入り口 → 30分 → 白岩ノ滝 → 1時間 → 麻生山分岐 → 40分 → 日ノ出山



日ノ出山からの展望はすばらしい。奥多摩の山塊が一番東に張り出している所で、360度、楽しめる。

そもそも、山名は御岳山から見て日の出の方向にあるので、この名が付いたという。しかし、日の出の住民はこの山のせいで靈峰御岳山が見えないので、貧乏山という蔑称を受けたと伝えられている。(江戸時代の地誌「新編武藏風土記稿」より)

2006年1月、日ノ出山からのご来光を見に行こうと、立川を早朝4時に車で出発。日の出三ツ沢つるつる温泉付近からの登山口に着いたのは5時。

真っ暗な中、ヘッドライトを頼りに登る。林道は急傾斜のところもあり、息が切れる。気温は氷点下になっているらしくライトに白い息が浮かぶ。林道終点近くに岩盤から水が逆るところがあった。解説板があり平井川の源流と記してあった。飲んでみると少し温かくまろやかな味であった。コーヒーに合いそうだ。

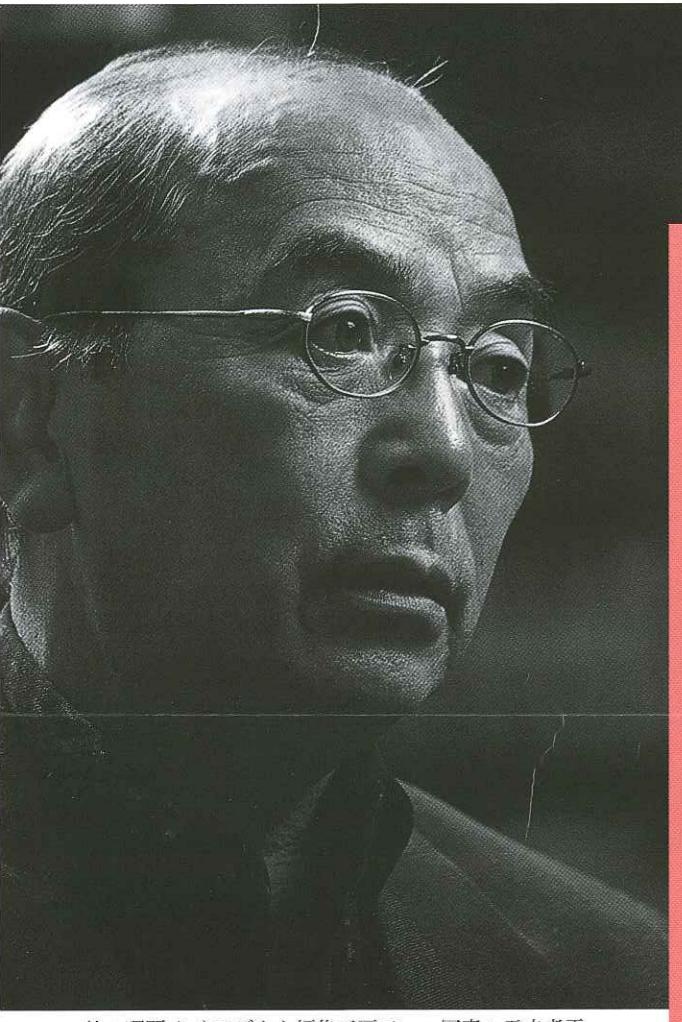
東の空が少し明るくなった6時30分頃、山頂に着いた。残念ながら雲が厚く、ご来光の瞬間は見られなかった。でも、しばらくして雲の間から数条の光の筋を見ることが出来た。周りを見渡すと光が峰々を照らし、山水画のような光景が広がっていた。なかなか美しい。絵心が無いが、何か絵筆を持ってみたくなった。

山頂でパノラマ景色を堪能しながら、熱いラーメンなどを食べ、しばし至極の時を過ごした。

下山後は、白岩ノ滝に回ってみた。完全に凍結はしていないが、それでも巨大な氷の壁が迫力を持って立ちはだかっていた。なお、ここから沢を詰めて日ノ出山へ行く登山道もある。

# 「楽しい」を共有したいから

ストリートを応援する「まちおん」代表  
**鈴木一廣さん**



於：曙町 えくてびあん編集工房で 写真：五来孝平

**芳賀** 鈴木さんは、立川のいろんなイベントでよしちゅうお会いしますけど、いくつぐらい関わってらっしゃるの？

**鈴木** 「まちおん」のほかに、今年から「手作り展」と名前を変えたアートマーケット、モノレール下サンサンロードの「楽市」ライブ、日本で最大のアカペライベント「アカペラ公園」、立川フランメンコ俱楽部「セビージャ」を中心に南口のすずらん通りで5月にやっているフランメンコフェスティバル、国営昭和記念公園でのイベントもお手伝いをしています。あと、「立川子ども劇場」は20年以上、膝を傷めて引退しましたけど富士見町のバドミントンクラブ代表をしていましたし、ふじみ健走会という走る会の仲間とレースに参加したり、「ふじみセン

トロ」のメンバーと玉川保育園で年1回のコンサート……。

**芳賀** すごいなあ。しかも全部、一市民の立場でいろいろ人に呼びかけて作り上げているわけじょ。鈴木さん自身も完全なボランティアですからね。

**鈴木** なんだか、やってるうちに増えちゃって(笑)。サラリーマンを辞めて独立し、立川文化市民フォーラムに参加したのが街との関わりの始まりですかね。最初、音楽祭をお手伝いしたら翌年は中心でやらざるを得なくなって。放っておけないんですね。いろいろなことをやっていますけど、多くが街の中の路上とか公園とか、屋外のイベントです。街を歩いている人たちが「あ、何かやってる」と気づいて楽しんでくれる。音楽だけで

なくアートでもダンス、パフォーマンスでも、それが街のひとつの風景、シーンとして溶け込む。そういうのって、いいでしょ。

**芳賀** 「まちおん」もその延長線上ですね。

**鈴木** 以前から「アーティストライブ」などの名称で街の中で音楽を聴くイベントをしていました。その時のアンケートで「こういうことをやっている立川の街は楽しい」という感想があったんです。たった一枚でしたけど、きっとたくさんの人がそういう感想をもってくれたんじゃないかなと思いました。デッキの上で路上ライブをするミュージシャンが増えてきて、彼らを街の中できちんと位置づけられないかと「ストリートライブ検討市民会議」という名称で団体を立ち上げました。市民を対象にアンケートをとってみると400以上の回答があり、約8割がストリート演奏を「楽しい」「まちの雰囲気としてよい」と好意的に見ていることがわかった。それでは、彼らに街の中のいろいろなところで演奏の場を提供しながら応援していくこと。名称も「立川まちおん」と親しみやすくしました。趣旨に賛同した市民と演奏家、両方が集まって「まちおん」です。

**芳賀** 歩行者専用デッキもく道路>ですから、路上演奏は相変わらず取締りの対象になっているわけですね。

**鈴木** そう。道路の使用許可の判断は警察署がしますが、デッキで音楽イベントが認められたことはありません。平成16年に警察庁から、地域の活性化のためのイベントについては使用許可の手続きが円滑に行われるよう配慮するという通達が出ているんですけどね。今は「まちおん」の活動ができるだけ広く知ってもらい、行政とも手を携えながら、相談やお願いもして、多くの市民に後押しをしていただくことが大事だと思いま

す。ひとさまに迷惑をかけずに続けていくことが評価されることかなと。

**芳賀** 僕も夜通りかかってデッキの演奏を聞くことがありますけど、立川でやっている人は平均してレベルが高いと思いません？ 「まちおん」のミュージシャンすでに売れっ子になっているグループもありますし。

**鈴木** ほかの地域をこまめに聴いているわけじゃないんですけど、いいミュージシャンが多いですね。あるパーティーでジャズピアニストの山下洋輔さんとお会いする機会があってストリートのことを話したら「すごいピアニストがいて思わず聞き惚れた」って。あの山下さんがそう言うんだからすごいに違いない(笑)。立川の場合、駅周辺のデッキにいろいろなミュージシャンが集中するから、自分のレベルが低いと思ったら気後れするのかもしれないですね。演奏者同士のネットワークで立川や「まちおん」のことが少しずつ知られてきて、見ず知らずのミュージシャンから電話をもらったりします。

**芳賀** 「まちおん」をより広く知ってもらう意味でも、3月18日に市民会館・アミューたちかわ大ホールで開く「まちおんフェスティバル」は成功させたいですね。

**鈴木** 2005年に「まちおん」としての旗揚げを兼ねたフェスティバルを小ホールで開きましたが、その後ホールでの演奏の機会がなかったんです。そこに立川市地域文化振興財団から「大ホールを使いませんか」とありがたい申し出があって実現しました。行政と市民の協働ということが言われていますけど、これもそのひとつと言えるでしょうね。大ホールでの演奏のほかに、市民会館内外でパフォーマンスなどもできないかなと話し合っています。立川のイメージソングを公募してフェスティバルでお披露目もします。

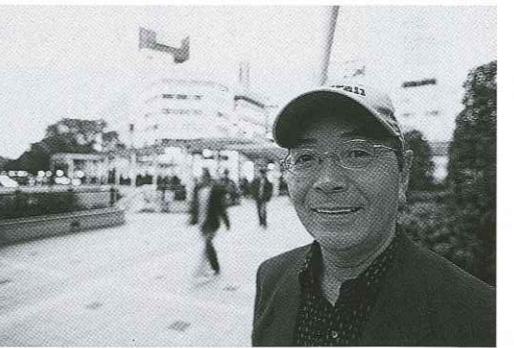
**芳賀** そういう企画の話をしている鈴木さんご自身がいち

ばん楽しそう。

**鈴木** 昔からお祭り男ですから(笑)。学生時代はラテンアメリカ協会というサークルに入って、同じラテンのフランメンコギターをほんの短期間ですが弾いたりしていました。サラリーマン時代はいろんな職場を経験したんですけど、新規事業を立ち上げたり、新しい企画を立てるのが大好きだったんですね。総務でも管理業務なんかそっちのけで社内運動会や周年行事をやったり。ある人に指摘された言葉が実に的確だなと思ったんですが、私はダボハゼだと。後先を考えず食いつく(笑)。音楽でもクラシック専門だと、ジャズしか聴かないということではなくて、自分がいい音楽だと感じたら何でも聴きます。やはりダボハゼ。そして自分がいいな、楽しいなと思うことを人も楽しいと感じて共有できたら、もっと楽しい。

**芳賀** 楽しいというのは大事なことですよね。特にボランティアで何かしようとすると、楽しいと感じなかつたら長く続きませんから。

**鈴木** 楽しいことを考えないと人生暗くなりますからね。まちづくりもいろいろあると思いますが、住んだり訪ねたりする人が立川は楽しい街だと思えるというのも大きな要素だと思うんです。「まちおん」は演奏者も聴き手もスタッフも楽しんでやります。ほかにも立川の街を楽しくするいろいろなことを多くの人と一緒に作り上げてたら、楽しいですね。4月には立川の街、あっちこっちで音楽が聴こえる「まちおんライブ」もやりますよ。



柴崎町2-4-19-1F	服地・洋裁材料 藤レディース
528-5101	柴崎町2-4-19-2F
522-6393	純中国料理 北京大飯店
柴崎町2-5-3	田中星美堂薬局
522-3913	特むし銘茶・海苔 菊川園
柴崎町2-5-6	ジョイフルプラザ
526-2035	Cafe COLORADO
柴崎町2-5-8	レストラン LouLou
526-2285	日本空手道 佐藤塾
柴崎町2-6-6-2F	株式会社 立川紙業
548-7460	Fashion You Me
柴崎町2-7-6	生活雑貨 EAST END
527-6111	石原薬局
柴崎町2-9-28	豆腐 やざわ屋本店
523-1640	サイクルハウス 輪輪館
柴崎町2-10-14	ビジネスHOTEL クボタ
522-4067	いなげや 立川南口店
柴崎町2-12-23	株式会社 正盛堂
522-1122	いなりすし・のり巻きすし 松月
柴崎町2-12-24	小林歯科クリニック
523-2947	ピューティーサロン ウィスター
柴崎町2-21-12	柴崎町2-21-15
527-8217	柴崎町2-21-16
527-1116	立川と語ろう 立川に生きよう えくてびあんは リストのお店にいつもあります

今月は 柴崎町・富士見町のお店です。

柴崎町3-2-1	オリオン書房 サザン店
525-3111	とんかつ専門 かつ亀
柴崎町3-5-2	西武信用金庫 立川南口支店
525-7647	多摩信用金庫 立川南口支店
柴崎町3-5-15	りそな銀行 立川支店
529-1311	オリオン書房 アレア店
柴崎町3-5-22	ほっとスペーす 中屋
528-2211	サンカラメラ
柴崎町3-6-29-1F	Coffee Shop LARGO
522-4161	パッケージプラザ カサイ
柴崎町3-6-29-3F	手打ち ぎょうざ工房
521-2211	こむろ酒店
柴崎町3-6-30	喫茶 ギャラリー花
522-2932	矢沢歯科眼科
柴崎町3-7-22	株式会社 京王ストア 立川店
522-3336	サーフショップ Waioli
柴崎町3-7-22-2F	ジヤガー立川
525-6704	NPO法人 東京 賢治の学校
柴崎町3-8-7	株式会社 浅見酒店
522-8601	伊藤接骨院
柴崎町3-11-25	
522-4770	
柴崎町3-14-3	
522-2613	
柴崎町3-14-6-1F	
524-3668	
柴崎町3-16-2	
525-6600	
柴崎町3-18-10	
540-1131	
柴崎町5-17-14	
522-7331	
柴崎町6-15-23	
524-5859	
柴崎町6-20-37	
523-7112	
富士見町1-2-7	
522-2823	
富士見町1-4-29	
524-7861	

# 本堂で、能を観る

## 普濟寺「玄武能」

晩秋の夕、立川の名刹・普濟寺に読経ならぬ謡と鼓、笛の音が響いた。

本尊聖觀世音菩薩像おわします本堂の板の間を能舞台に見立てた「**玄武能**」。

普通の能舞台とは違い、客席の間近で演じられる「**葵上**」。

しばし幽玄の世界に遊んだ。

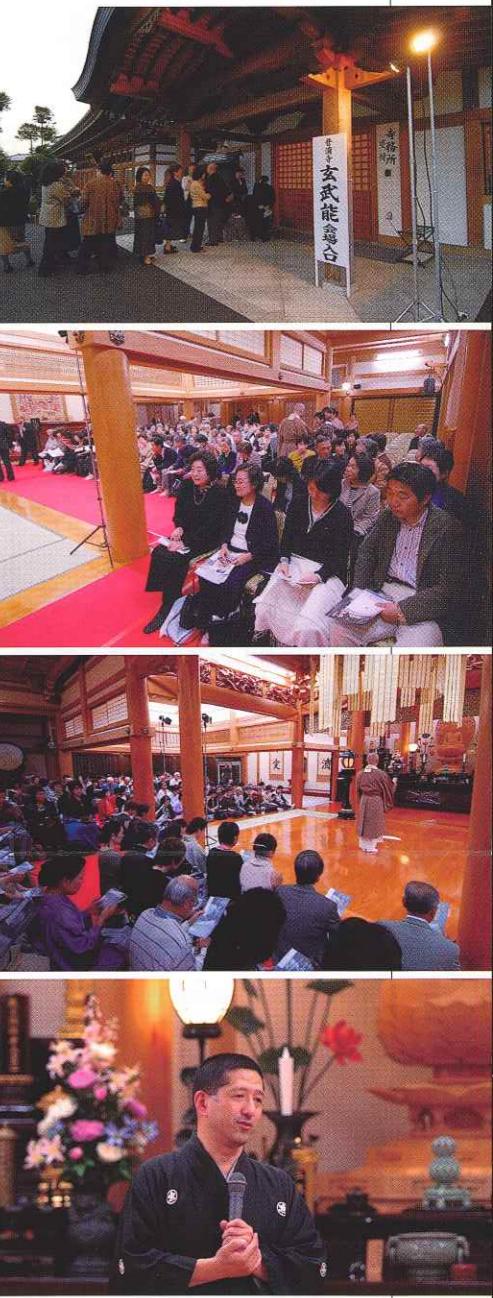
火災による消失から再建され二〇〇四年秋落慶した普濟寺の伽藍。十月二十一日、その中心である本堂が人で埋まつた。寺の文化活動として開かれる初の能公演。「**玄武能**」の名は、もちろん普濟寺の山号・玄武山にちなむ。

柱に閉まれた本堂板の間が能舞台。能楽堂などと違つて客席との段差がない。そして、弓場重典住職の挨拶に続いて観客も唱和してご本尊前で般若心経の読経。寺院ならではの始まりだ。

シテをつとめるあきる野市在住の能楽師、中所宜夫さんが「**葵上**」の作品と鑑賞のポイントを分かりやすく解説した後、能に先立つて狂言「**佛師**」。仏像を求めて都にやつてきた田舎者をだまそうと偽仏師（シテ山本泰太郎）が吉祥天になりますが、あれこれ注文をつけられた上に最後には見破られるといいう、お寺に縁のある演目。

いよいよ「**葵上**」の能が始まる。源氏物語の主人公である光源氏の北の方・葵上が物の怪に悩まされ臥せつてゐる。が、葵上は舞台の端に置かれた小袖で象徴的に表されるだけ。嫉妬故に葵上に祟りをなす六条御息所が物語の中心だ。巫女に呼び出されて怨みを述べ、行者の加持に鬼の姿に変じて襲いかかるが、ついには行者の唱える咒に成仏得脱しがつと本来の寺院本堂に戻つた。

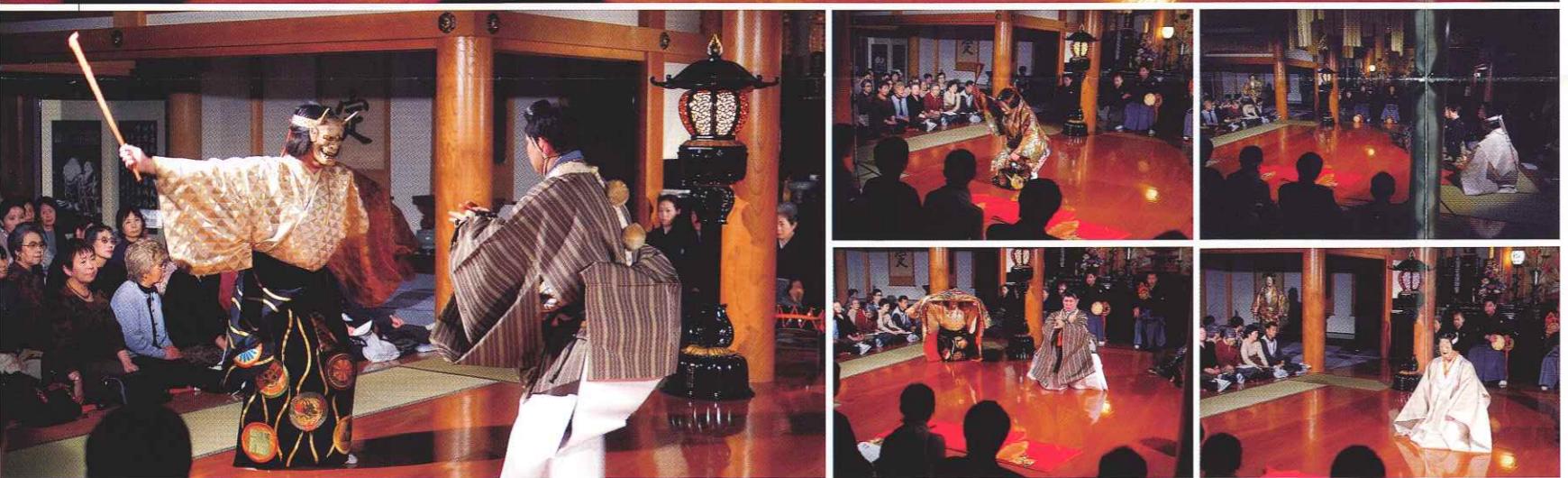
最前列に座ればすぐ前が舞台。面を通して演者の息づかいまで伝わつてくる。人間国宝・津村禮次郎さんらの謡にのせて舞い語られる濃密な能空間が、終演とともに、



写真：五来孝平



最初は軽妙な狂言「佛師」



宮崎 光一さん(西砂町)

享保年間にこの地を開墾した西砂農家の12代目。かつては養蚕や桑苗を作り、その技術を生かした芝や樹木苗を生産する農家。現役は子息に譲ったが、国営昭和記念公園に武蔵野の農村風景復活を目指す「こもれびの里」では市民ボランティアに砂川の農業を実地で指導する。長年消防団活動にも尽力し平成13年に勳六等瑞宝章。また、自宅裏の倉庫を改造し、かつて使われていた農具や生活用具を集めた「西砂民具館」を開設。西砂農民の暮らしと技と心を伝えようとしている。

ご自宅で 写真：細江英公

立川と多摩地域が  
もっと楽しいホームページ

多摩ではこ  
ネット

<http://www.tamatebako-net.ne.jp/>

多摩ではこネット編集工房  
〒190-0012 立川市曙町3-4-3 武蔵ビル2F  
tel 042-548-9606 fax 042-548-9609  
e-mail message@tamatebako-net.ne.jp

常楽我淨

真如苑提供番組くじょううらがじょう

スカイパーソナルTV 216ch、マイ・テレビ 84ch

土曜 前9時~9時15分  
午後7時15分~7時30分  
再放送/火曜 前9時~9時15分  
午後7時45分~8時  
放送時間は予告なく変更する場合がございます。

立川にて育てられて七十年

真如苑  
柴崎町1-2-13 Tel. 527-0111(代)

MIZUHO

みずほ銀行  
豊富な  
ラインアップで、  
お客様の  
資産運用ニーズに、  
(みずほ)はおこたえします。

●ご相談はお近くのみずほ銀行へ。

大廣社は今、「知的集約」型企業を実践しています。



先進のシステムと  
最新技術との融合

株式会社  
大廣社  
〒190-0022 東京都立川市曙町5-17-13  
tel 042-527-1911  
fax 042-527-1949  
E-mail info@daikousya.jp  
<http://www.daikousya.jp/index.html>

えくてびあん流

## 第二回「応現院」文化講演会 開催 (そのまんま・そのまんま)ひろさちや氏講演

応現院文化講演会実行委員会では、6月に薬師寺の安田英胤管主を迎えての講演会に引き続き、11月26日第二回「応現院」文化講演会を開催した。今回の講演者はひろさちや氏。ひろ氏は東京大学文学部インド哲学科を卒業。同大学院博士課程を修了し、確固たる基盤のもとに宗教をわかりやすく説き、多くの支持を得ている。現在は大正大学客員教授、著書も多数ある。

この日の講題は「そのまんま・そのまんま—あなたはあなたであっていいのです—」。3500人の応募の中から先着で選ばれた1500人の聴衆に、おもしろおかしく仏教の教えを中心に、幸せに生きる方法を話した。「大丈夫。人は死ぬまで生きますから」「分からないことが分からないと分かることが分かること、それが悟りじゃないかと思う」



といった言葉に、聴衆は笑いながら頷いていた。

講演会終了後には応現院内の参観が行われ、仏像や曼荼羅をゆっくり見る機会が設けられた。実行委員会では今後も講演会を通じて、真如苑の寺院である「応現院」を地域住民に活用してもらえる文化交流の場として提供していく予定。

この人この店 ④

### カフェ・貸しホール ばくだん畑

奥山八重子さん

2006年10月にオープンしたばかりのばくだん畑。昭和記念公園の南側、JR青梅線踏切り近くのホーミー2階がそのお店。階段を上って左が貸しホール。約40坪の広々とした空間、壁面には鏡が貼ってあるのでダンスにはピッタリ。右はライブも楽しめるカフェ。有機栽培の豆から入れたコーヒーに、こちらも国産や有機栽培にこだわった手作りケーキやサンドイッチ。おいしいだけじゃなくて、セットになると100円引きになるのもうれしいところ。踏切のそばなのに外の音が聞こえてこない。落ち着けるとっても静かなお店です。ばくだん畑の由来は?「主人が幼い頃、この辺はそう呼ばれていたんです」。本職のご主人が手がけたレトロな立川を彷彿させる内装。他のお店で修行中というお嬢さん二人と一緒にたのしいお店作りに励んでいる奥山さん、「1学期まで中学校の体育の先生してたんです」とは、本当にびっくり!



〒190-0013  
立川市富士見町2-12-3  
TEL 042-522-2214  
営業時間 11:00~18:00  
定休日 お問い合わせください  
<http://www.homey2.jp/>



写真撮影: 五来孝平  
12月号掲載の「大黒屋」住所のうち伊藤ビル1Fはリヴェール浅見1Fの誤りでした。

たすかわ 散歩道 ⑥

## 多摩川の渡しと鎌倉街道

早春の多摩河原の風景を求めて

挿絵と文 ■森 信保

鎌倉時代に使われた道はすべて「鎌倉道」と呼ばれ、武蔵野とその周辺の村々には古い街道が方々にある。それは奥多摩の山峡から、多摩丘陵・武蔵野台地にかけて見られる。「いざ鎌倉」という言葉のように、武蔵武士が往来した道として、住む人々に永く言い伝えられてきた。

今回の散歩コースは、西国立駅①から南武線の線路の踏切を渡り古道・万願寺道を南下し野仏のある旧芝中から多摩川方面に向かう。甲州街道の錦六丁目信号を渡り「至誠学舎」の横道を入り、旧甲州街道(谷保道)を左に見ながら国立との市境の根川貝殻坂吊り橋を渡って陸上競技場南側②に出る。競技場の下流は「万願寺の渡し」があった場所で、江戸初期、青柳村と柴崎村境から万願寺村に向かう甲州街道の渡しとして使われていた。

冬枯れの多摩川河岸の広がりを眺めながら堤防沿いに日野橋へ。ガードをくぐり市下水処理場西側の小道を歩いて行くと旧甲州街道と交わり、右側の樹のもとに「日野の渡し碑」③が見える。甲州街道は江戸時代に柴崎村を通る道筋となり、錦町の下和田坂を下り、この付近に船渡場があった。数百年も続いたこの船渡場は、下流の日野橋が完成する大正15年(1926)でその役割を終えた。碑の反対側には明治・大正と砂利運搬で活躍した馬を供養する「馬頭観音」の野仏が残り、時代の流れを感じさせる。

遊歩道に戻り「立日橋」をくぐり抜け多摩



行程 ① 西国立駅—万願寺道—根川貝殻坂吊り橋—② 陸上競技場—③ 日野の渡し碑—残堀遊歩橋—根川緑道公園—④ 柴崎児童遊園(小学校発祥の地)—⑤ 中央病院前—⑥ 立川駅南口



川と残堀川合流地点へ。多摩川は昔から洪水のたびに被害を繰り返し、そのたびに中州を作りながら日付が変わるだけで心まで改まるように感じるから不思議です▼VIEWは立川の名刹・普濟寺で行われた「玄武能」のレポート。腹の底から響く謡を聞くと身も心も引き締まります▼今年の干支は丁亥。十二支最後の亥で、60年前の戦後ペーブームの亥年生まれ、いわゆる団塊世代が定年を迎える時期▼筆者はそれより少し後ですが、遠からずその年齢。会社人間として生きて来た方たちがリタイアした後どう生きて行くかが課題と言われます▼対談させていただいた「まちおん」代表の鈴木一廣さんは、そのお手本というべき方です。ご自身が楽しいと思うことを多くの人と共に楽しむ。そのため汗を流すことを惜しまない▼路上で自分の音楽を聴いてもらうミュージシャンやアート、ダンス、パフォーマンスを見せるアーティスト。多くが若くて無名ですが、熱意と可能性だけはたっぷり持っています。それを応援するには彼らと同じ情熱のほかに大人の智慧も必要▼そういえば正月の能には翁がつきものですね。老人には古来、世界を祝福する不思議な力があるのでしょうか。えくてびあんからも、まずは「とうとうたらりたらりら……」。(芳)

スタッフ

編集 大久保清志／清水恵美子／中薫子  
デザイン 池田隆男(WATER DESIGN ASSOCIATES)  
AMNET design factory  
写真 五来孝平／中村伸

えくてびあん (C) 1月号

第25巻 通巻266号

平成19年1月1日発行

発行 えくてびあん編集工房

〒190-0012

東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F

TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065

編集人 芳賀敏博

発行人 加賀悦也

印刷 (株)大廣社

無断転載を禁じます。

## 【甘納豆】

初春の光を浴びておめでたく光っているのはお豆たち。丸い形はそのままに芯までしつとり柔らかく、お多福豆はお多福の、虎豆は虎豆の、小豆は小豆の味わいが。蓮の実やゆずの皮もつまんでみれば、今年もまた笑顔、笑顔のお正月。

（花奴万葉庵／幸町）



## 立川和菓子ものがたり

目に美しく食して美味【最終回】

## 【吹雪】

今は昔のものがたり。立川にも大雪の降る冬があつたそうな。川の堤に、石垣に、お地蔵さんの頭にも、雪は積もっていつたとか。薄めに皮をかぶつたおまんじゅう。様変わりした街並に、ひととき懐かしさを運んでくれる。（ゆうき／錦町）

